

「大容量映像のIP伝送」 最新技術を放送業界に提案

放送業界関係者も多数来場した「Interop Tokyo 2022」の会場

ネットワーク技術の専門展示会「Interop Tokyo 2022」（6月15日～17日に幕張メッセで開催）が、放送業界のIP化に向けた本格的な技術提案を行った。最新のネットワーク技術を駆使して大容量映像を長距離伝送するMedia over IPのデモなどを実施。「自由度の高いインターネットをいかにMedia over IPに活用するか」ということをネットワーク技術者側から放送業界に提案した。数年後に普及すると予想される最新ネットワーク技術を用いてデモと展示会場への通信サービスを提供する毎年恒例のプロジェクト「ShowNet」などで実施されたMedia over IPのポイントと技術、主要機器、放送業界の導入メリットをレポートする。（渡辺 元・本誌編集長）

InteropとInter BEEが「Media over IP」を共に推進

春のInteropと秋のInter BEEが、放送・メディア業界へ技術的な確信を持って「Media over IP」に取り組んでもらうために、両者が協力したサポートへ動いた。

6月8日1,600台以上の製品・サービスと、533人のトップエンジニアが構築するInterop「ShowNet」の最終段階を、Inter BEE「IP PAVILION」メンバーが見学した。その目的は、400Gというケタ外れのIPバックボーン環境下の相互接続性を検証するセットアップ現場を知ること。参加した約30人のメンバーは、対外接続回線やルーター構成、サイバー脅威検出、オプティカル伝送、ローカル5Gなどの説明を聞いて歩いた。テーマの一つに「Media over IP」があり、最大リンク速度400GbpsでのSRv6とマル

チレイヤー統合、超低遅延や広帯域映像伝送などにIP PAVILIONメンバーは高い関心を寄せた。また、ShowNetスタジオのトークセッション映像を、Media over IPで連続配信するなど、ShowNetの基本である「実際に動いているところが見たい、に伝える」取り組みを展開した。

編集部が目にしたのは、6月16日に行われた「Media over IP 特別対談」だ。ShowNet NOC チームメンバーの情報通信研究機構（NICT）・遠峰隆史氏とNHKメディア開発局・北島正司氏が「放送から見た通信、通信から見た放送」をテーマに対談した。遠峰氏の「Media over IPで配信した動画はどうか」という問いかけで始まり、北島氏から「ShowNet



対談するNOC チームメンバーの情報通信研究機構（NICT）・遠峰隆史氏（左）とNHKメディア開発局・北島正司氏（右）

は映像・音声を揺れる回線でどうコントロールできるかを検証し、IP PAVILIONはIPによる新たなサービスにアプローチする。これらを半年ごとに交流すると、日本発のMedia over IPメッセージはおもしろくなる」とし、遠峰氏は「通信の技術者と放送の技術者が意見交換し合う場を発展させたい」と応じた。技術イベントのあり方として一つの歴史を刻んだのではない。（文：吉井 勇・本誌編集部）